

「デジタルメンテナンス技術交流会（大阪）」を開催しました

2020年11月5日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、「デジタルメンテナンス技術交流会（大阪）」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

鉄道総研では、鉄道設備のメンテナンスにデジタル技術を積極的に活用する研究開発課題である「デジタルメンテナンスによる省力化」に取り組んでいます。今回、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて重要性が増している設備メンテナンスの省力化・リモート化をメインテーマとして、2020年10月22日にホテルメルパルク大阪（大阪市淀川区）で、「デジタルメンテナンス技術交流会（大阪）」を新型コロナウイルス感染症対策をとった上で開催いたしました。本技術交流会には、鉄道事業者を中心に25社94名の方がご来場されました。また、基調講演につきましては、ライブ配信を行い、36社64名の方にご聴講頂きました。

【今回のポイント】

鉄道設備のメンテナンスの省力化・リモート化に資する鉄道総研の最近の研究開発成果について、構造物、軌道、地震工学に関わる3件の基調講演を行うとともに、8件の成果展示を行いました。成果展示については、鉄道総研内の試験フィールドからの生中継を交えて会場で説明者がプレゼンテーションを行うハイブリッド展示2件と、会場内の説明パネルやモニター、実物・模型に対して鉄道総研の研究者が国立研究所からリモートでプレゼンテーション・質疑応答を行うリモート展示6件を行いました。

1. 開催日時：2020年10月22日（木）10時から16時

2. 場 所：ホテルメルパルク大阪（大阪市淀川区） 4階、5階

3. 基調講演：

- デジタル技術を活用した鉄道構造物の維持管理・建設分野の省力化の取り組み
：構造物技術研究部長 神田 政幸
- デジタル技術を活用した軌道保守の省力化と安全性向上
：軌道技術研究部長 片岡 宏夫
- リアルタイムデータを活用した地震後の早期運転再開技術
：鉄道地震工学研究センター長 山本 俊六

4. 成果展示：

【ハイブリッド展示】（試験フィールドからの生中継を交えて、展示会場でプレゼンテーション）

- 3次元画像による目視検査支援システム
- 軌道保守管理データベースシステム LABOCS（ラボックス）とその将来展望

【リモート展示】（展示会場の来場者にリモートでプレゼンテーション）

- 画像情報を用いたトンネル全般検査支援技術
- 旅客流動シミュレーションによる駅改良計画支援
- 低コスト軌道検測装置 Track²er（トラック・トラッカー）
- ディーラーニングを用いた木まくらぎの劣化度判定システム
- 画像解析エンジンを活用した列車巡視支援システム
- DISER（ダイザー）と変位センサーによる地震後の早期運転再開支援

5. 問い合わせ先

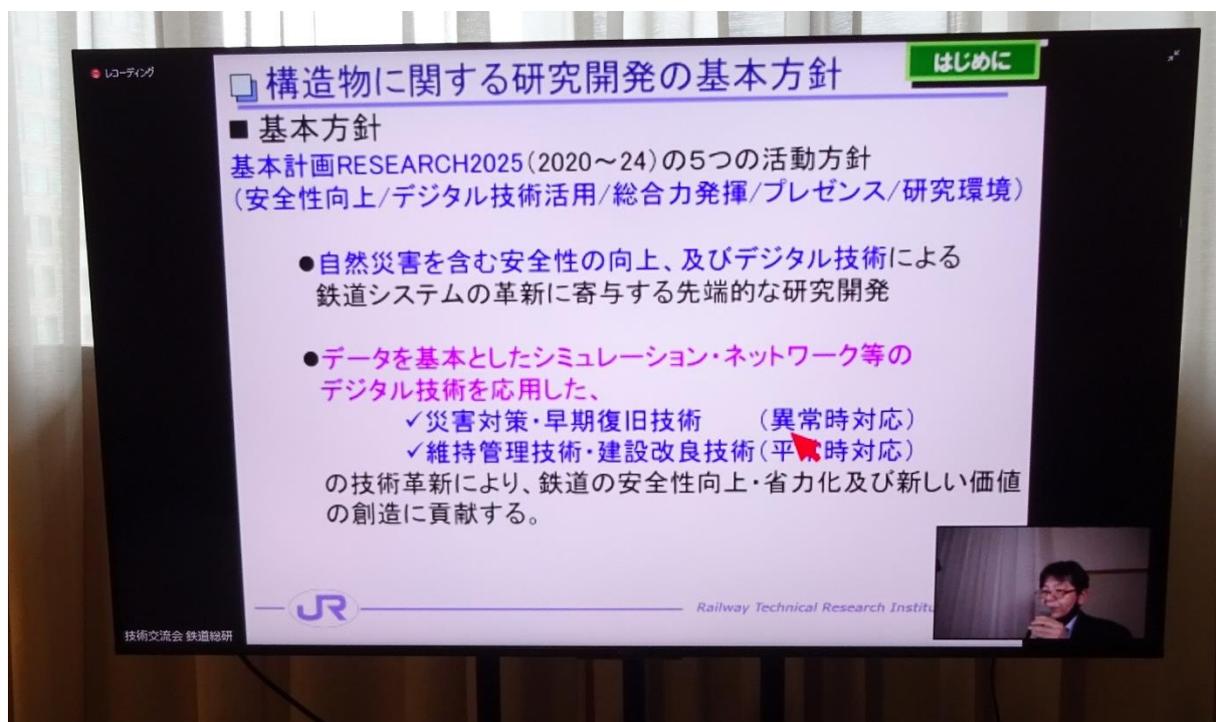
上記の成果展示に関するご質問は下記 URL からお問い合わせください。

<https://www.rtri.or.jp/sales/inquiry.html>

【基調講演】



講演会場の様子（大阪）



基調講演のライブ配信の様子（右下が講演者）
「デジタル技術を活用した鉄道構造物の維持管理・建設分野の省力化の取り組み」

【ハイブリッド展示】



展示会場でプレゼンテーションを実施している様子（大阪）
「3次元画像による目視検査支援システム」



現場での活用を想定した試験フィールドからの生中継を行っている様子（国立研究所）
「3次元画像による目視検査支援システム」

【リモート展示】



展示会場で来場者が質問している様子（大阪）
「画像解析エンジンを活用した列車巡視支援システム」



リモートで説明者がプレゼンテーション・質疑応答を行っている様子（国立研究所）
「画像解析エンジンを活用した列車巡視支援システム」